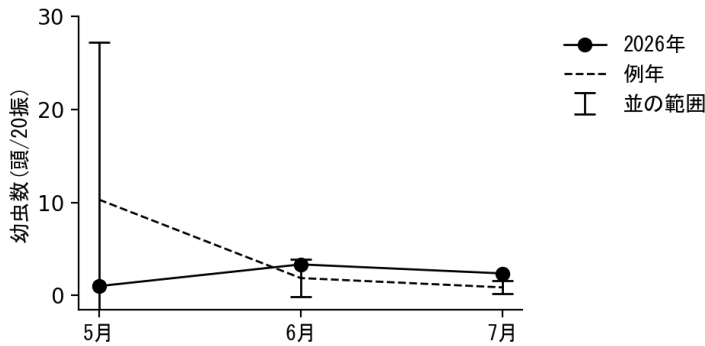


作物	さとうきび		地域	宮古群島
病害虫名	バッタ類			
調査結果	7 月の発生量（平年比）	やや多		
予報	7 月からの増減傾向	—		
	8 月の発生量（平年比）	—		
予報の根拠				

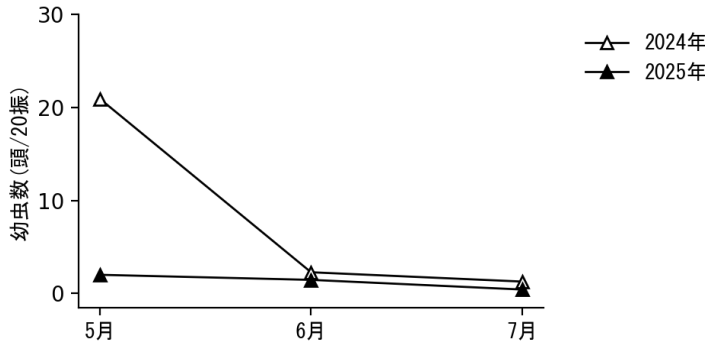
調査結果

幼虫数の推移

＜今期と平年＞



＜過去2年＞



- ・発生種：トノサマバッタ、台湾ツチイナゴ、ヒゲマダライナゴ、マダラバッタ
- ・発生ほ場率45.5%（例年：38.5%）

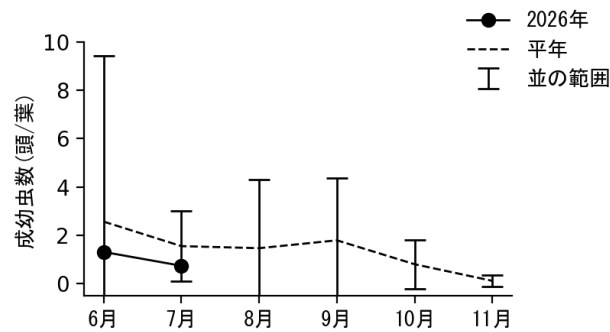
防除のポイント

- ・発生源となるほ場及び周辺の除草を徹底する。
- ・成虫防除を実施する場合には、活動の鈍い早朝に一齐防除を行うと効果的である。

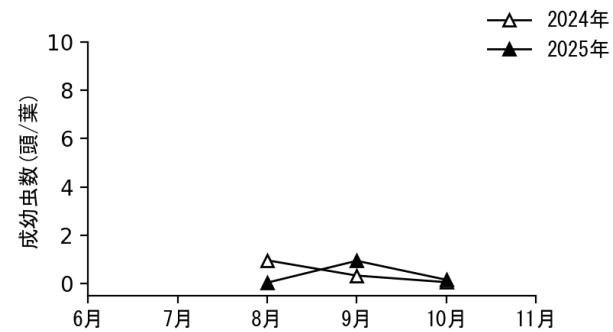
作物	マンゴー		地域	宮古群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ			
調査結果	7 月の発生量（平年比）	並		
予 報	7 月からの増減傾向	→		
	8 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

調査結果

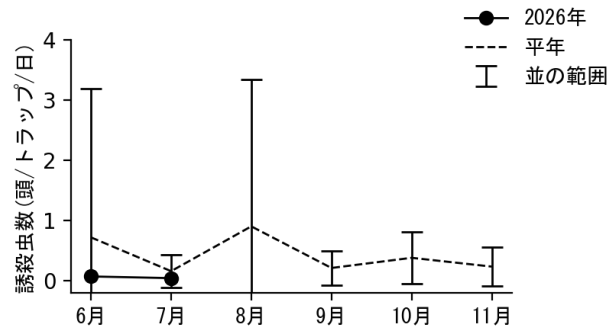
葉当たり成幼虫数の推移（今期と平年）



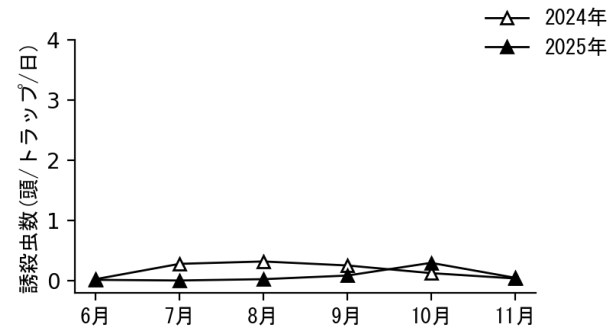
葉当たり成幼虫数の推移（過去2年）



トラップ当たり誘殺虫数の推移（今期と平年）



トラップ当たり誘殺虫数の推移（過去2年）



・発生施設率60.0%（平年：55.9%）

防除のポイント

- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 収穫期に発生の多かった施設では、せん定終了後に薬剤による防除を行う。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

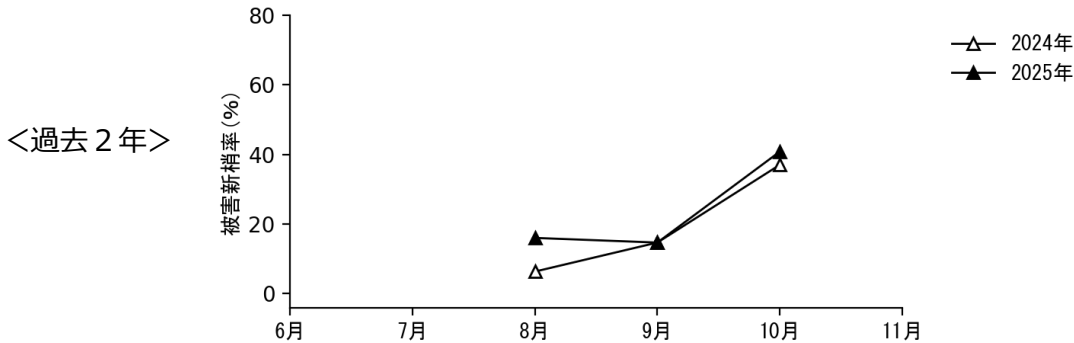
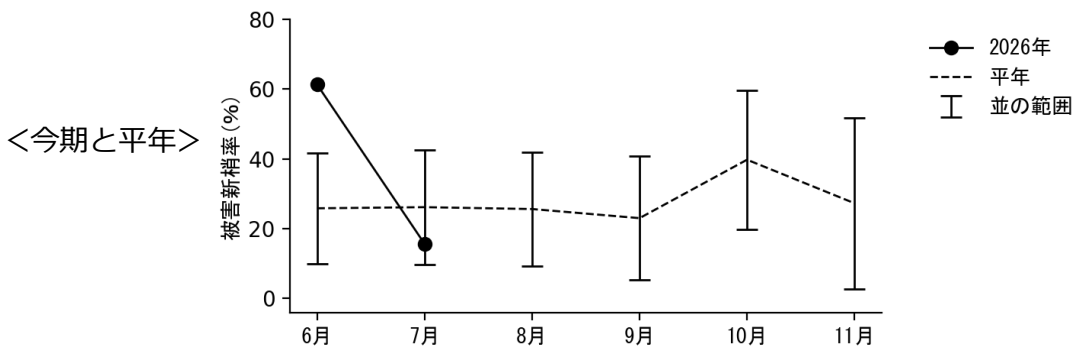


ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー		地域	宮古群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ			
調査結果	7 月の発生量（平年比）	並		
予報	7 月からの増減傾向	→		
	8 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

調査結果

寄生新梢率の推移



・発生施設率100%（平年：55.2%）

防除のポイント

・産卵から羽化まで約2週間と繁殖スピードが速いことから、新葉をよく観察し、早期発見・防除に努める。また高密度に寄生された葉は落葉が早く、幼虫の脱出痕から炭疽病等にも感染しやすくなることから、被害葉及び不要な新梢を除去し、施設外に持ち出し処分する。

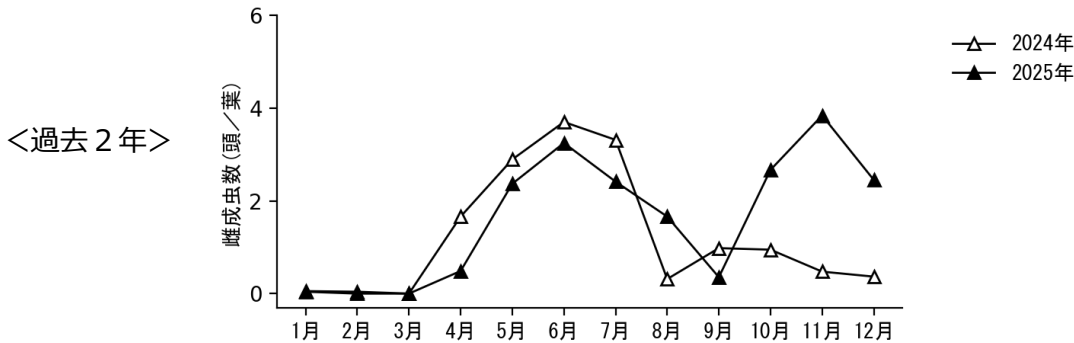
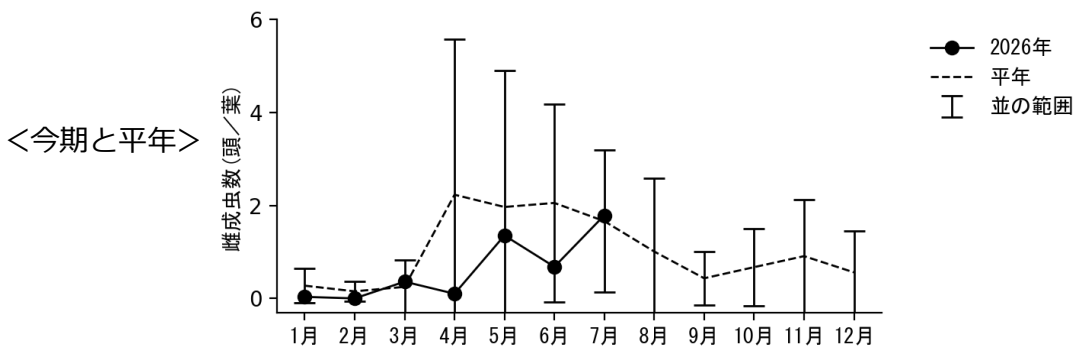
・高湿度条件で幼虫や蛹の生存率が高まることが知られているため、施設内の湿度管理に留意する。



作物	マンゴー		地域	宮古群島
病害虫名	③ ハダニ類			
調査結果	7 月の発生量（平年比）	並		
予報	7 月からの増減傾向	↘		
	8 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）		

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：シュレイツメハダニ、マンゴーツメハダニ
- ・発生施設率80.0%（平年：59.2%）

防除のポイント

- ・収穫終了後の防除を徹底する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

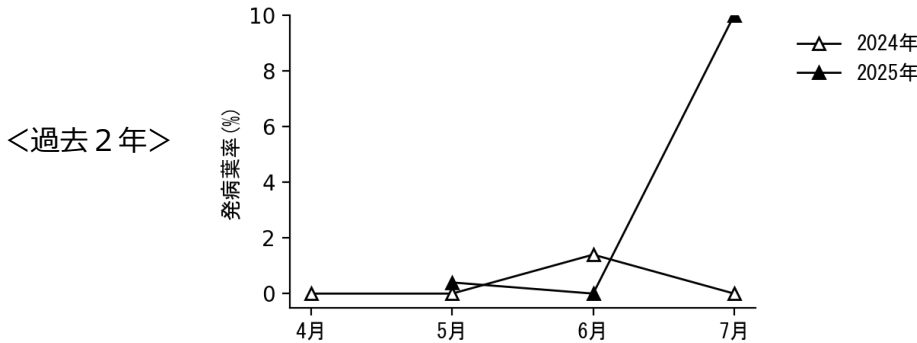
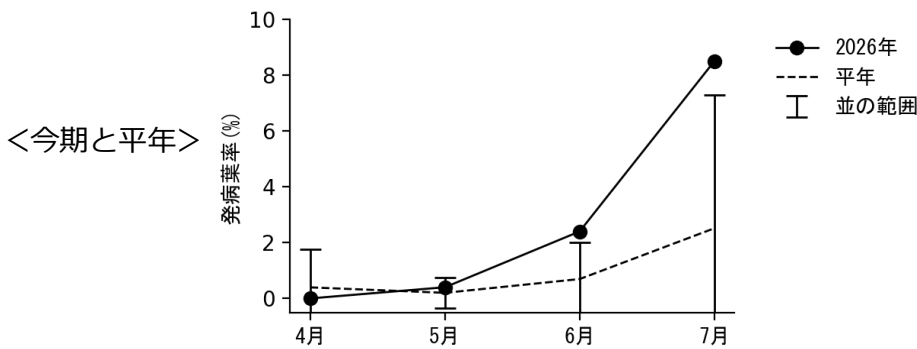


マンゴーツメハダニ

作物	オクラ		地域	宮古群島
病害虫名	うどんこ病			
調査結果	7 月の発生量（平年比）	やや多		
予 報	7 月からの増減傾向	—		
	8 月の発生量（平年比）	—		
予報の根拠				

調査結果

発病葉率の推移



・発生ほ場率25.0%（平年：12.8%）

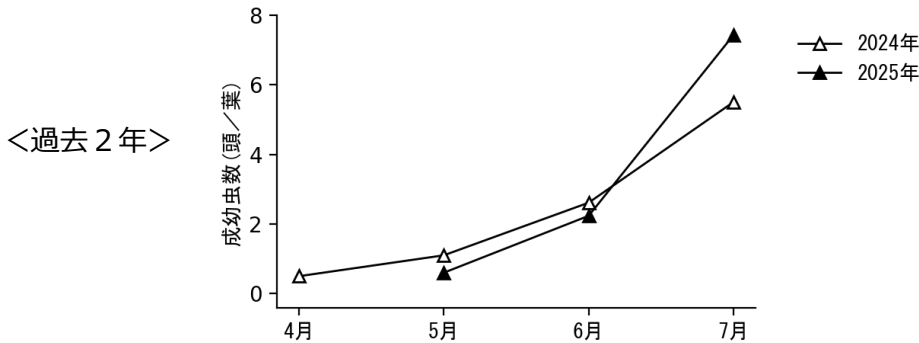
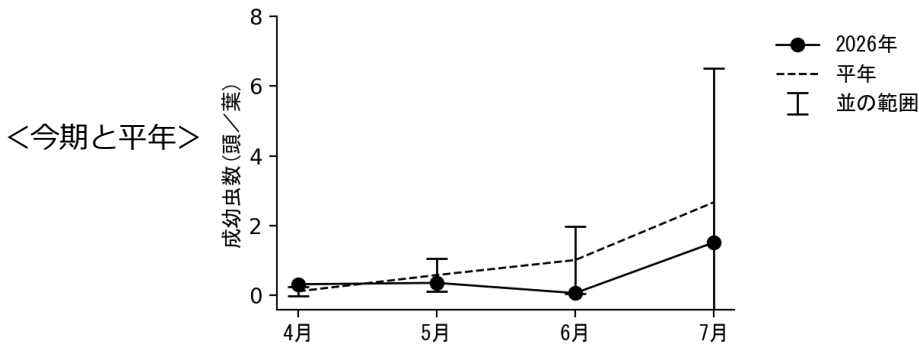
防除のポイント

- ・下位の罹病葉や残葉は速やかに除去し、風通しを良くする。
- ・窒素過多にならないようにする。
- ・草勢を維持し、適切な施肥管理を行う。

作物	オクラ		地域	宮古群島
病害虫名	フタテンミドリヒメヨコバイ			成虫
調査結果	7 月の発生量（平年比）	並		
予報	7 月からの増減傾向	—		
	8 月の発生量（平年比）	—		
予報の根拠				

調査結果

成幼虫数の推移

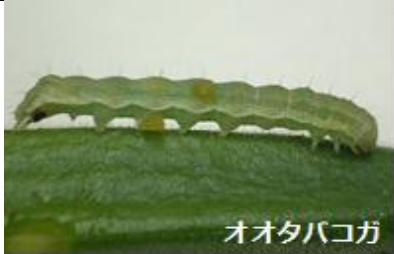


・発生ほ場率100%（平年：82.1%）

防除のポイント

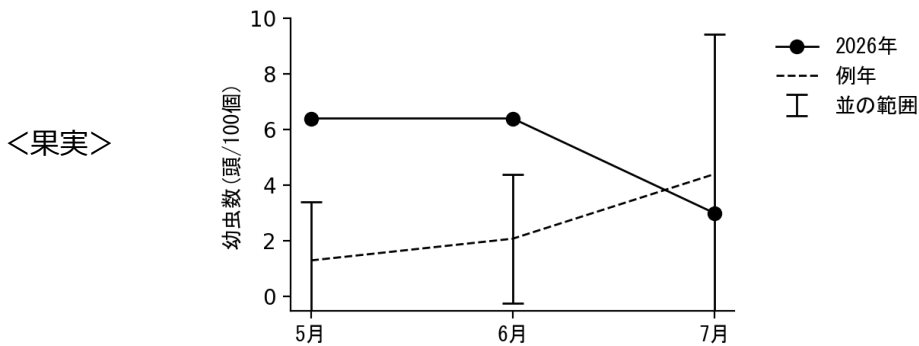
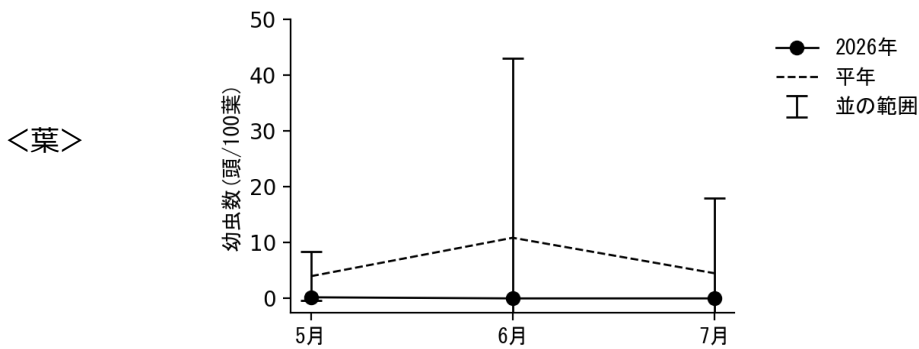
・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。



作物	オクラ		地域	宮古群島
病害虫名	チョウ目幼虫		 オオタバコガ	
調査結果	7 月の発生量（平年比）	並		
予報	7 月からの増減傾向	—		
	8 月の発生量（平年比）	—		
予報の根拠				

調査結果

幼虫数の推移（今期と平年）



- ・発生種：オオタバコガ
- ・発生ほ場率50%（平年：25%）

防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・食害痕を発見したら、速やかに薬剤を散布する。また、同系統薬剤の連用を避ける。

